



「固い きずな」

「挑戦」「前進」「変化」そして「準備」



武雄北中学校第50回卒業証書授与式を感動で終わることができました。



記念すべき、第50回卒業式は、在校生と共に30名の卒業生を祝福し見送ることができました。育友会会長横田薫栄様の祝辞も頂くことができました。卒業生にとっては、思い出に残り、気持ちを新たにスタートできることでしょう。答辞では、生徒会長藤川さんが、中学校生活の思い出とこれまで支えてくださった保護者さんや先生方に感謝の気持ちを伝えられ、在校生には励ましの言葉を頂きました。答辞を受けていて、3年間はあっという間で、人生で一番貴重な時間だと改めて感じました。

思い出や経験を胸に、これから自分の信じた道をしっかり歩いてくれると思います。

また、卒業生一人ひとりが、どんなに輝いた大人になるか楽しみにしています。卒業 おめでとう。



武雄北中学校は、令和4年3月31日で、祝 開校50年を迎えます。



2年生・1年生一人ひとりが主役に！！！！

3年生を送り出し、皆さん方の出番です。 下記は、卒業式の式辞で、3年生に送ったはなむけの言葉です。

「志」という言葉を送ります。吉田松陰の言葉をかりて「夢亡き者に成功なし」この場合の夢とは単に自分の幸せを求めるものではなく、「世のため人のために」という気高い想いを持ち、その達成のために自分の人生をかける覚悟を持った夢、すなわち「志」のことなのです。

「志」を持てば、その達成のためにどのような困難にも立ち向かい、失敗を恐れず果敢に挑戦していけるはずです。何も挑戦しなければ失敗もしないでしょう。何かに挑戦するからこそ、成功もあれば失敗もあるものです。失敗することは何も恥じることはありません。

また、「志」を持つことにより、人として相手に対する思いやりが持てるようになります。この、かけがえのない30名の仲間たちを生涯の友とし、新たに会える多くの友達とまた喜びを分かち合い、苦しいときは助け合い、心豊かな人間関係を築いてください。

1・2年生の皆さんも伝統を引き継ぎ、そしてさらに磨き輝いてください。



富永さん松尾さんの県特選の作品です。皆さんも自分の特技・長所をしっかりと伸ばしてください。まだ自分で気づいていない才能が、いっぱいあります。

4年間 ありがとうございます。

私事ですが、令和4年3月31日をもって定年退職いたします。母校武雄北中学校で定年を迎えられたことへの感謝の気持ちで一杯です。35年間、これまで出会った子供たち・保護者の皆様・地域の方々の支えやご厚誼のたまものと厚くお礼申し上げます。

「めぐりあわせ」という言葉がありますが、今年初めに退職まで残り3カ月かと思った時、ふとこの言葉が頭をよぎり、ここ数年は「めぐりあわせか」と胸が熱くなりました。まず、平成28年4月に武雄中学校から、唐津市鎮西町にある海青中学校に転勤となりました。自宅から47Kもある遠い学校でした。正直嫌でたまりませんでした。その時、亡き父の妹に電話し「今度、呼子（親父のふるさと）の近くの中学校に転勤になった」と報告したら、妹は「修（亡き父）兄ちゃんが呼ばしたとたい」と喜んでいました。その言葉を聞いた時、胸のつかえがとれたのを今も覚えています。あの言葉がなかったらと思うと、当時、本当に神の声でした。

次に、ラスト4年間を母校勤務できたことです。まさか母校で勤務できとは思っていませんでした。しかも武雄北中学校創立50年の年に退職を迎えられたこと、感無量です。赴任した時、50年前の新校舎開校当時の風景写真を見て、中3の9月1日から新校舎で若木中生と新しい学校生活したことを思い出しながら、50年創立までに校舎回りを当時のようにしようと思い立ちました。そして、創立50年を迎えるにあたって、卒業生で「武北ゆめ基金」実行委員会を立ち上げ、両町民様の方々から、心厚い寄附を頂き、50年のお祝いと未来へとつなげる活動ができたことは、一生忘れません。

「めぐりあわせ」は「運命」という意味もあります。最後の職場が母校勤務で本当に幸せ者です。他校勤務にはない愛着と使命感を持って仕事することができました。縁に感謝です。

最後になりますが、再度のめぐりあわせに期待し、生徒の皆さん・保護者様・地域の方々・先生方のこれからの前途に幸多かれと祈念しまして、最終回のたよりとします。ありがとうございました。